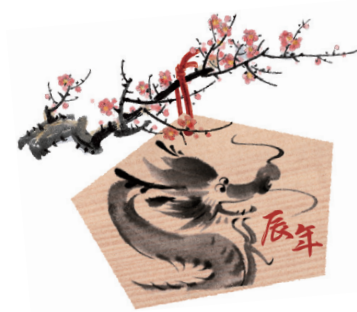


“皆様とともに歩む、成功への一年” 新年のご挨拶



(一財) 大阪科学技術センター
ATAC 運営委員長



佐々木 孔基

皆様、新年明けましておめでとうございます。
昨年まではコロナ禍による厳しい状況が続きましたが、皆様のご努力と柔軟な対応により、コロナとの共存方法を見出し、インフルエンザに匹敵する対応を可能にしました。しかし、歴史的なパンデミックが約300年のサイクルで発生していたという事実があり、近年地球規模での人々の往来などによる感染症が頻発し、今後もその頻度が増える可能性が指摘されています。感染症の頻発が懸念される中、引き続き注意深い行動を心がけ、次なる予兆に備えてまいりましょう。

経済の動向に目を向けると、世界情勢の不安定化が進む中、原油価格の高騰や円安、久しぶりのインフレ基調が影響を及ぼしています。賃上げ圧力や人手不足も深刻であり、経営者の皆様には過去数十年とは異なる経営戦略が求められています。関西地区では今年が大阪・関西万博の前年となり、期待されるプログラムは空飛ぶ自動車など多岐にわたります。万博後の発展に向けて、新たなビジョンを描いていくことが重要です。

ATACはコロナ禍によってこの数年、リモート会議中心に活動してきましたが、徐々にリアルな会議や会社訪問を増やしてまいりました。今年は訪問頻度を一層増やし、皆さまの課題を共に理解し、解決策を模索する活動を強化してまいります。ATACの構成メンバーも変わり、時代に即した対応が可能になりました。金属や高分子に加え、食料品関連を含むものづくり支援、アジアや欧州を含む海外展開、更には昨年より注目され始めている生成AIの応用使用などを準備し始めております。支援範囲は一層広がってきておりますので注目頂きたいと思っております。

以前より推進しているものづくり企業を中心にした補助金の支援を拡充し、「ものづくり」、「事業再構築」、「先進的省エネルギー」に加え、「事業承継引継ぎ」などの補助金にも対応力を一層強化して参ります。何かご質問やご相談がありましたら、お気軽にお知らせください。ATAC一同、喜んで御支援させていただきます。

最後になりますが、皆様にとって素晴らしい年となりますよう、心よりお祈り申し上げます。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

株式会社小泉製作所の工場見学と トークセッション

令和5年11月2日、第26回社長懇話会を堺市の株式会社小泉製作所で開催致しました。今回は、異業種の経営トップ13名とATACおよび大阪科学技術センターのメンバーを含め総勢28名のご参加で、(株)小泉製作所の工場見学と、トークセッションという形式で小泉社長と株式会社ユニックスの苗村会長にご登壇いただき、進行役にATACの佐々木運営委員長が加わり、セッションを進めました。

株式会社小泉製作所

小泉製作所は、産業用ヘリコプターの機構部品やパワーアシストスーツのフレーム、幼児用のバス手すりなど、パイプを中心とした金属部品を製造しています。工場内には、機械加工、溶接、ニッケルクロームメッキ等の工程があり、大手企業を含め様々な顧客企業からの開発や量産の要望に応じています。

工場見学

三つの班に分かれて作業工程を順次見学しました。ファクトリズム^{※1}というオープンファクトリーを標榜されており、自由に見学・質問・撮影が可能で、公開して良いとのことでしたので、写真を掲載しています。

ベンダー曲げ加工（パイプ）、プレス加工、特筆すべきは、トリニッケルクロームメッキ（耐食性に優れた装飾用メッキ）で、非常に外観の装丁が難しい部品のバフ研磨、ニッケルクロームメッキの表面処理を行い、その高水準な仕様には定評があります。（写真1～3 参照）

また、社員と共に熱心にオープンファクトリーに取り組み、試行錯誤を重ねながら社員の意見を採用し、自社のファン育成やインナーブランディング^{※2}に繋げています。（写真4、5参照）

各作業工程では、どのような質問でも社員の皆さんが自分の現場の強みに裏打ちされた言葉で丁寧に説明され、よく理解できました。

プレス機によるパイプ切断と穴あけ作業



写真1 パイプ溶接用の治具



写真2 溶接後の変色を、電解法で除去する作業



写真3
介護用補助走行機の手すりパイプ溶接作業



写真4
ボルトやナットを組み合わせたミニチュア作品



写真5

見学者の中の希望者によるミニチュア溶接体験
見学者の作ったミニチュア作品はプレゼントされました



ATAC第26回社長懇話会 2023年11月2日 株小泉製作所様

写真6 工場見学後の集合写真

トークセッション^{注3}



小泉製作所
小泉社長

ATAC
佐々木運営委員長

ユニックス
苗村会長

小泉達哉社長は、大手重工業会社にて生産技術を学び2007年株式会社小泉製作所に入社され2014年に31歳で社長に就任されました。

パイプ加工には曲げや溶接などの工程があり、曲げのニーズに応えるだけでなく、溶接ではアルミの溶接ニーズにいち早く応えることで技術を確立されてきました。また、小泉社長は、オープンファクトリーや各所でのトークセッションに参加して自社の広報活動につなげ、現在ではドローン部品や自動車部品など大手企業からの依頼にも応えられ、加工の高付加価値化に繋がられています。

また、それらの活動を社員と共にされることで、「小泉製作所の〇〇さんに頼もう」という顧客も現れ、社員一人一人が生き生きと働き、共通の価値認識や行動様式を形成するというインナーブラ

ンディングに繋がっているとのことでした。

株式会社ユニックス

株式会社ユニックスは1984年に苗村会長が創業され、ポリウレタンコーティングやテフロンテクニカルコーティングを得意としています。ものづくり補助金だけでなく、経産省のサポイン委託研究開発にも採択されるなど研究開発型の企業です。

今回のトークセッションでは自社技術を紹介されるだけでなく、苗村会長自筆の書「有言実行」をご披露いただき、この座右の銘の大切さを語られたり、縁戚ではない社員の方に社長職を継承されたご苦労話などもお話しいただきました。

小泉社長も苗村会長も、仕事の内容・進め方は異なっておられるものの、「社員を信じて共に歩む・社員を含む周りの皆を幸せにする」という「人を大切にされる」経営姿勢は同じだなと感じました。

交流会

トークセッションの余韻が冷めやらぬ中、交流会が始まりました。株式会社中央電気計器製作所の畑野社長の乾杯のご発声に始まり、ご参加の社長様方から会社のご紹介や懇話会のご感想も述べられ、和やか且つ盛況のうちに時間が過ぎていき、2時間の交流会が非常に短く感じられました。

そして、終了後に20分ほど片づけをして会場を出たところ、当日参加された社長数名の方と小泉社長が話し込んでおられるのを拝見しました。先達に大いに啓蒙されたそのご様子に心嬉しく思いました。

小泉社長、苗村会長並びにご参加いただいた皆様にお礼を申し上げます。

(平 洋二郎、半埜賢治 記)

注1：ファクトリズムとは、「こうばはまちのエンターテイメント」を合言葉に、「こうば (Factory)」を一般開放し、「体験・体感すること (tourism)」で、ものづくりの現場の「主義、主張 (ISM)」を伝えるための活動。

注2：インナーブランディングとは、人材の流出を防ぎ、チームの結束力を強め、生産性を向上することを目的とした取り組み。

注3：トークセッションとは、話し合いのための集まりや会合のこと。決められた時間内で、登壇者が自由に話したい内容について話すもので、聞く人に興味や情熱を伝えることが目的。

ATAC サミット (広島開催) 報告

2019年春の大阪での ATAC サミット開催後、コロナ禍により延期されていた ATAC サミットが、2023年10月2日と3日に、ATACひろしまの主催で開催されました。参加者は、広島6名、奈良2名、大阪6名の総勢14名でした。

〈活動報告内容〉

◆ NPO 法人 ATAC ひろしま

米田理事長から活動報告がありました。会員25名。平均年齢73歳の高齢化が課題です。コロナ禍での収入減少もありましたが、本年度は回復基調で推移しました。新事業としては、広島市から「省エネ支援アドバイザー派遣事業」を受託し、エネルギー管理に精通した会員が企業に対して省エネ活動の指導を行っています。来年4月以降は課税事業者になり、インボイス登録を行う予定です。

◆ NPO 法人 ATAC・MATE 奈良

綾木代表から ATAC・MATE 奈良の活動報告がありました。会員13名。高齢化が課題。工業出身の新入3人が新規入会。観光業中心の奈良県で、工業出身者の新規入会が注目されています。

従来の支援活動に加えて付加価値セミナーを実施。インボイス制度は登録済みです。

◆ (一財) 大阪科学技術センター ATAC

平運営副委員長から活動報告がありました。会員22名。やはり高齢化が悩み。コロナ禍の各年

度は多くの事業を中止し、遠隔による研究会の実施となりました。2022年11月に1年遅れの30周年記念事業として、記念誌の発行、記念講演会等を実施しました。技術支援のコンサル件数が減少しているため、ホームページの充実も図り、新規顧客獲得に努めています。

第1日目は会合の後、マツダミュージアム並びにマツダ工場見学後、酒を酌み交わし、夜遅くまで語り合い懇親を深めました。

2日目は、平和記念公園へ向かい、平和記念資料館及び原爆慰霊碑等を見学、原爆ドームを背景にして下記記念写真を撮りました。



昼食は平和記念公園隣接の川の中の「かなわ」で、牡蠣の本場「広島のお牡蠣料理」を堪能しました。

今回の ATAC サミットにご協力頂きました広島の皆様から温かいおもてなしを頂き、心より厚く御礼申し上げます。(浜野信夫 記)

「第25回きたしんビジネスマッチングフェア2023」に出展しました

今年も11月8日、9日にマイドーム大阪で開催された第25回きたしんビジネスマッチングフェア2023に出展しました。このフェアは、92ブース103社・団体が集結するビジネスマッチングフェアで、技術や製品に強みを持った事業者同士の交流を深め、新規事業の創出や商品開発など事業の発展に貢献する、「産・官・学・金」のあらゆる分野と連携し、主に北大阪エリアの地域経済の活性化を図ります。開催者発表では、来場者数：3057名商談件数：825件でした。



ATAC ブースでは、活動の中でも特に「作業改善手法のRWF」「知財に関する研修」「データサイエンス」「省エネ支援」「補助金申請支援」等の具体的提案をしました。

ATAC ブースの来場者は、15社18名でした。ATACでは、今回初めての試みで、当番が手分けして出展者ブースに出向き、各社の情報収集と ATAC の PR 活動を行いました。その結果、多くのコンサルティングの引き合いを受けました。早速お伺いして今後の相談をさせて頂いております。(山口まや 記)